

風景画を描くとき、画家は風景のどの部分を切り取るか、近景と遠景の表し方や構図など、様々なことを考えながら描きます。例えば、画家がどんな位置からその景色をとらえるかによって、画面上の地平線や水平線の位置は変わります。

久野和洋の作品は、地平線が画面の低い位置にあります。小野彦三郎や野田典男の作品は、水平線が高い位置にあり、対象を見下ろすように描かれています。小野の作品は平面的な表現などから日本画風と言われますが、高い視点からのとらえ方は、浮世絵などの画面構成を思わせます。一方、塩水流功、松本英一郎の作品は、同じような低い位置に地平線、水平線があり、遠くからとらえられた風景ですが、松本の作品には白とピンクの層をなす雲形などが描かれており、心の目で見た風景になっています。

画家の目線を意識しながら、それぞれの作品世界を味わってください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	塩水流 功	1924~1996	「あがった、あがった！」	1984 (昭和59)	162.0×227.5	油彩
2	松本 英一郎	1932~2001	さくら・うし 92-3	1992 (平成4)	130.3×162.0	油彩
3	久野 和洋	1938~2022	地の風景・二本の樹	2003-04 (平成15-16)	162.0×130.3	油彩
4	野田 典男	1928~2023	運河のある街	1993 (平成5) 頃	72.7×91.0	油彩
5	小野 彦三郎	1912~1971	岬	1961 (昭和36)	162.3×97.3	油彩